2027年3月期第2四半期
決算説明資料

福山通運株式会社

（東証プライム市場 9075）

2026年11月11日



第2四半期決算　サマリー

福山通運
FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

■前年同期比で増収増益

連結売上高：108.2%（前年同期比）
営業利益　：216.9%（前年同期比）

■物量確保、単価改善、オペレーション効率化等で改善

運送	前年同期比+3.7%の物量を確保しつつ、 低単価中心に改定効果が発現
貸切	当社流入需要の確実な刈取りと、運賃改定
流通加工	料金改定・外部委託業務の内製化を推進
国際	新規連結効果に加え、物量増加・価格改定で増収

■ 2027年3月期業績予想は上方修正

中間期実績を反映し、通期の売上高・各利益予想を上方修正。
上期の上振れが寄与。下期の業績予想は概ね従来予想を維持

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

上期における主要トピック

● 運送事業は中東特需を経て、適正運賃収受の流れが定着

- 1Q：中東情勢に伴う特需で、低単価貨物が流入することで価格改定効果が限定的に
- 2Q：7月以降は単価が概ね目標水準に沿って推移しており、下期も改善効果の持続を想定
- 今後も価格改定は、継続的なサイクルとして定着を想定

● 他社が運びきれない需要の受け皿として運送事業以外も存在感を発揮

- 貸切：他社が受注条件を厳格化する中、新規荷主からの引き合いが拡大
- 流通加工：新拠点が安定稼働へ、チクブパッケージシステム社との連携を加速
- 国際：新規連結子会社の取込み、日本・ASEAN域内発着の営業強化

● 次期中期経営計画に向け、自前主義から協創へ戦い方を変革

- 同業他社等との協創と、ミッシングピースを補完する戦略的M&Aを検討
- 政策保有株式・保有不動産の売却など、資本効率を意識した経営への転換を推進

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

Ⅰ 27年3月期第2四半期実績および27年3月期取り組み

Ⅱ 企業価値向上に向けた取り組み

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

連結業績

（単位：百万円／%）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	増減額	前年 同期比
売上高	153,573	**166,124**	12,550	108.2
営業費用	149,961	**158,289**	8,327	105.6
営業利益 （営業利益率）	3,612 (2.4)	**7,835** **(4.7)**	4,223	216.9
経常利益 （経常利益率）	4,463 (2.9)	**7,992** **(4.8)**	3,528	179.1
親会社株主に帰属する 中間純利益	3,042	**7,037**	3,995	231.3

売上高

特積みの単価改定・物量確保に加え、貸切需要の取込み、前期開設倉庫の稼働・既存荷主の取扱拡大、国際事業の新規連結等で増収

営業利益

傭車費・国際関係費用等が増加するなか、運送の物量確保・単価改定、貸切・流通加工の増収、国際事業の新規連結が寄与

経常利益

受取配当金減少と為替差損への転換等で営業外損益は減少
本業の増益により経常利益は増益

中間純利益

経常利益の増加に加え、投資有価証券売却益の増加等が寄与

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

セグメント別業績

（単位：百万円/%）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	増減額	前年 同期比
売上高　合計	**153,573**	**166,124**	12,550	108.2
運送事業	119,335	**125,244**	5,909	105.0
貸切事業	12,928	**14,034**	1,106	108.6
流通加工事業	11,660	**12,431**	770	106.6
国際事業	6,074	**11,022**	4,947	181.4
その他事業	3,574	**3,391**	△182	94.9
営業利益　合計（利益率）	**3,612 (2.4)**	**7,835 (4.7)**	4,223	216.9
運送事業	2,300 (1.9)	**5,804 (4.6)**	3,503	252.3
貸切事業	1,160 (9.0)	**1,414 (10.1)**	254	122.0
流通加工事業	1,953 (16.7)	**2,015 (16.2)**	61	103.2
国際事業	169 (2.8)	**461 (4.2)**	292	272.9
その他事業	554 (7.3)	**547 (7.5)**	△6	98.8
調整額	△2,524	**△2,407**	116	－

運送事業

傭車費等コスト上昇が続くなか、輸送力を確保し、他社で受けきれない需要を取り込み物量は前年同期比+3.7%、継続的な単価改定により単価は+1.4%と収益性改善が進み増収増益

貸切事業

定期貸切の運賃改定と協力会社との連携によりスポット需要を獲得。顧客数・取扱件数の増加、単価向上等が寄与し増収増益

流通加工事業

前期開設の諏訪・名古屋等の稼働と既存荷主の取扱拡大で増収。経費配分見直しの影響があるなか、料金改定・自社化が寄与し増収増益

国際事業

新規連結・顧客獲得でコンテナ量が拡大。料金適正化も寄与し、増収増益

※その他事業の営業利益率は、セグメント間の内部売上高消去前の数値を用いて算定しております。

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

分野別運送収入

福山通運
FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

運送収入

※2026年4月～9月稼働日数：前年同期比99.3%

＊当社の荷物分類定義
小口貨物：1件1個30kg以下　　商業貨物：1件6個121kg以上
商業小口：1件5個120kg以下　　重厚長大：1個100kg以上または1件500kg以上

（単位：百万円/%）		2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	増減額	前年同期比
分野別運賃	小口貨物	29,556	**30,240**	684	102.3
	商業小口	25,620	**26,600**	980	103.8
	商業貨物	24,636	**26,064**	1,428	105.8
	重厚長大	27,560	**30,047**	2,487	109.0
	計	107,372	**112,950**	5,578	105.2
その他の運賃		11,415	**11,699**	284	102.5
その他運送事業収入		547	**594**	46	108.6
計		119,335	**125,244**	5,909	105.0

輸送4要素

（前年同期比/単位：%）	トンキロ単価	個当り単価	Kg当り単価	重量
小口貨物	99.9	100.9	99.1	103.2
商業小口	102.6	102.6	102.2	101.6
商業貨物	102.8	102.2	102.2	103.6
重厚長大	102.4	104.4	103.3	105.6
全体	101.6	102.5	101.4	103.7

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

営業費用

（単位：百万円/%）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	増減額	前年同期比	参考※
営業費用　合計	149,961	**158,289**	8,327	105.6	(105.9)
人件費　合計	69,360	**69,712**	351	100.5	(102.5)
人件費	63,142	**63,413**	270	100.4	(102.6)
外注人件費	6,218	**6,299**	80	101.3	(101.3)
物件費　合計	53,275	**56,595**	3,319	106.2	(105.9)
燃料費	7,661	**7,680**	18	100.2	(104.0)
傭車費	16,517	**19,057**	2,540	115.4	(109.6)
貸切傭車費	9,187	**9,777**	590	106.4	(108.2)
その他	19,908	**20,079**	170	100.9	(102.3)
諸費　合計	17,347	**22,411**	5,064	129.2	(123.2)
取扱手数料	7,316	**8,363**	1,046	114.3	(101.2)
その他	10,030	**14,048**	4,017	140.1	(141.5)
減価償却費	9,977	**9,569**	△408	95.9	(96.9)

人件費

連結範囲の変更の影響△13億円を除いた場合+2.5%
ベースアップ、売上増に伴うインセンティブ増加などによる給料等が増加

物件費

輸送力確保に向けて集配傭車費、貸切案件増加に伴い貸切傭車費がともに増加

諸　費

取扱手数料の増加は、主に連結範囲の変更によるもの。その他の増加は、主に新規連結及び取扱件数増加による国際関係費用の増加

減価償却費

機械装置及び車両運搬具の減価償却費が減少

（ご参考）※　2026年4月から連結子会社1社が非連結となったことによる各項目の増減への影響を除いた場合の前年同期比
影響額は下記の通り
人件費：△13億円　　燃料費：△2億円　　傭車費：+8億円　　貸切傭車費：△1億円　　その他物件費：△2億円
取扱手数料：+9億円　　その他諸費：△1億円

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

運送事業（1）物量増加と単価改善

- **他社が引受けを制限する中、物量制限をせずに運び切り、物量増と運賃改定を両立**
- **単価は上期計画に対し未達も、7月以降は概ね目標水準に沿って推移し、下期も改善効果の持続を想定**

概要

上期累計　**1日あたり物量104.4**（計画 102.5）　**/ 単価 101.4**（計画 101.6）

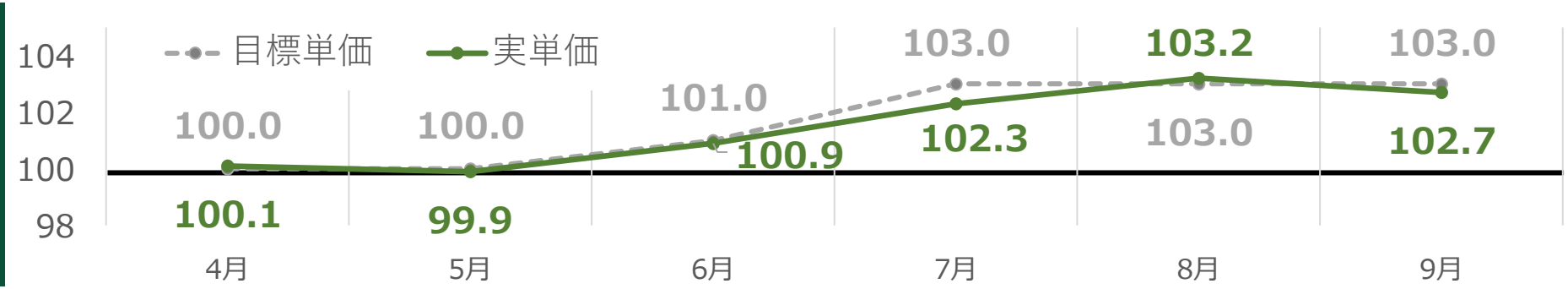
1Q **1日あたり物量107.4　単価100.3**	2Q **1日あたり物量101.4　単価102.7**
中東特需に伴う貨物ミックスで改定効果が相殺	中東特需の沈静化に伴い、単価改定効果が発現

物量の推移（稼働1日あたり）



- 他社が受注を制限する中、物量制限なしで荷主の需要に対応した
- 当社が運び切れた背景は、**協力会社の活用を含む運行管理の高度化により、輸送力の確保に継続的に取り組んだ**ため

目標単価と実単価の推移



Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

運送事業（2）第2四半期の単価改善実績

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

- 運賃改定対象の4分類では、第2四半期に改定効果が発現し、kg単価は前年同期比で着実に上昇
- 高単価貨物は安定した輸送で物量を確保しつつ、今後は適正運賃収受に向けた取り組みを重点化

❶ 単価改定を目標にしていた分類では、単価改定効果が第2四半期で発現

荷主分類別 kg単価（前年同期比／%）

荷主分類	今期目標	2026年7月	2026年8月	2026年9月
1.低単価	運賃改定	104.8	106.1	106.1
2.重厚長大		102.5	102.8	102.8
3.長距離		101.0	101.6	101.0
4.長期未改定		99.4	101.2	101.2
5.高単価	シェア拡大	99.7	97.3	98.8
合計		102.3	103.2	102.7

❷ 高単価貨物は着実な物量確保を実現しており、今後、適正運賃収受への取り組みを加速

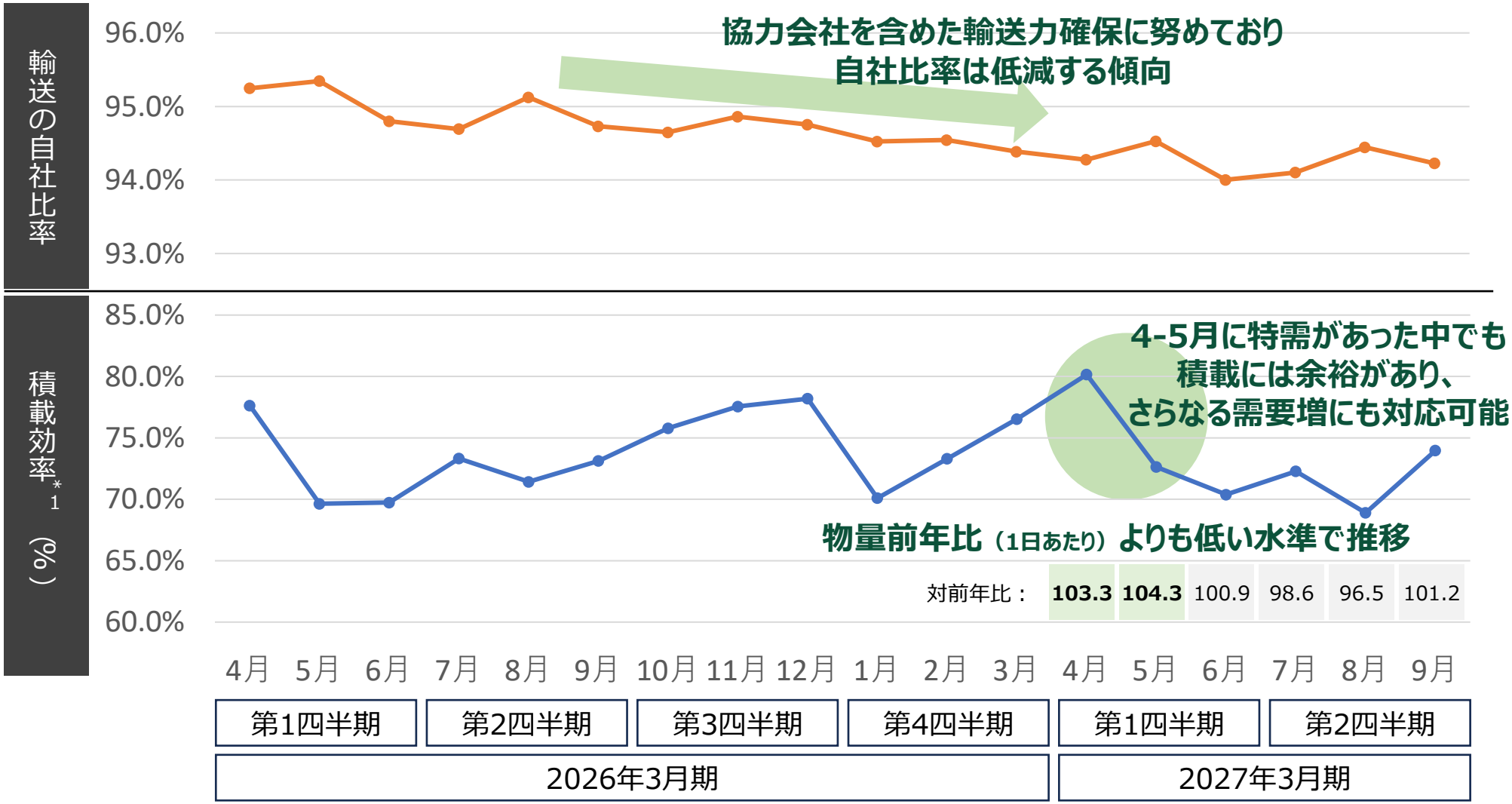
主な高単価業種別の1日あたり物量（前年同期比／%）

業種分類	2026年7月	2026年8月	2026年9月
医療関連	101.8	98.8	104.3
電子電器部品	103.2	97.9	103.5
機械部品	105.8	101.6	105.0
機械・機具	105.5	100.4	104.6

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

運送事業（3）積載効率

- 既存輸送力の有効活用と協力会社連携、空車回送区間の他社協業により、物量増加に対応
- 積載効率向上により、傭車単価上昇によるコスト増を上回る収益性を確保



*1：当社の輸送能力トンキロに対する実際の積載トンキロ

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

運送事業（4）下期以降の見通し

福山通運
FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

- 上期の単価改善を土台に、採算に基づく改定を下期も継続
- 引き続き物価上昇を踏まえた価格改定を継続し、通期計画の達成を企図

上期実績
101.4%
1Q 100.3%/
2Q 102.7%

3Q計画
103.6%

通期計画
102.6%

次期中計での目標・活動

5分類に基づき運賃改定等を実施

荷主分類	目標
1.低単価	運賃改定
2.重厚長大	
3.長距離	
4.長期未改定	
5.高単価	シェア拡大

上期未改定の荷主に対して継続的に改定を実施しつつ、さらに2分類のテーマを追加

荷主分類	目標
1.低単価	運賃改定
2.重厚長大	
3.長距離	
4.長期未改定	
5.高単価	シェア拡大 ＋ 運賃改定
6. 1個41kg以上個建運賃	運賃改定
7.不適正重量の是正	

上期未改定の荷主が未だ全体の2～3割存在しており、継続対応

新たな運賃改定テーマとして取り組みを開始
- 2026年運賃*1を11月2日に適用開始
- 既に2026年個建運賃表は改定済

物価上昇に合わせて適正な運賃収受に向けた活動をサイクルとして継続

*1：2024年運賃から平均20%値上げ、距離601km以上、重量501kg以上は30%値上げ

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

貸切事業（1）業績概要

- 他社で運びきれない輸送需要の受け皿として、取扱件数が拡大
- 全国ネットワークと協力会社網を活かし、下期以降も需要の取込みを継続

売上高

スポット需要の取込みと運賃改定で増収

（単位：百万円/%）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比	計画比
売上高　合計	**12,928**	**14,034**	108.6	103.6
貸切	9,181	**10,152**	110.6	101.7
ルート配送	3,747	**3,882**	103.6	109.0

貸　切

スポット需要・運賃改定で前年同期比**110.6%**

ルート配送

既存顧客維持・単価改定で前年同期比**103.6%**

主要KPI

他社で運びきれない貨物が流入し、数量・単価が上昇

取扱件数（月平均）

前年同期比 **107.8%**

単価

（定期貸切の改定荷主に限る）

改定前後比 **108.2%**

協力会社数（9月末）

前年同期比 **105.0%**

要因

荷主の需要に応える体制構築・安定輸送力確保が結実

- 他社が貸切の受注条件を厳格化する中、当社の貸切へ流入
- 混載便で扱えない貨物が貸切へ切り替え
- 貸切HP開設により、新規荷主からの問い合わせが増加
- 各地域・各店所ごとに継続的な協力会社網の拡充を実施

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

貸切事業（2）下期以降の取り組み

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

- **定期貸切の運賃改定を継続し、コスト上昇に見合う運賃水準へ是正**
- **輸送力の確保と提案営業の強化で、拡大する需要を確実に受注する体制を構築**

受注拡大のための体制構築	運賃適正化	輸送力の確保
荷主基盤を活かした提案とサービス拡充で受注機会を拡大	**定期貸切の運賃改定を継続的なサイクルとして定着**	**外部プラットフォームも活用し手配できる車両を拡大**
上期 新規に貸切事業の営業担当を追加配置 **+74名** **下期以降、各担当による活動をさらに積極化**	**上期 低単価荷主を中心に改定（定期貸切）** 約**25**%の低単価定期便荷主中心に改定を実施 **下期以降、残る荷主へ申入れを継続**	**上期 ハコベル社とのシステム連携の取組を継続中** **下期、ハコベル社とシステム連携を開始予定** ▼ **協力会社手配の迅速化を実現**

その他、主な取り組み予定

- 運送事業の荷主に、貸切輸送を合わせて提案
- 中長期的には積合せ貸切で、貸切・混載に載せにくい中長距離貨物に対応
- 前年度改定荷主は一巡し、継続的な改定サイクルとして定着へ
- スポットも、支払運賃上昇に合わせ適正運賃を収受し差益を確保
- 求車求貨プラットフォームを活用し、手配可能な車両の幅を拡大
- 各店所主導で新たな協力会社の開拓を継続

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

流通加工事業（1）業績概要

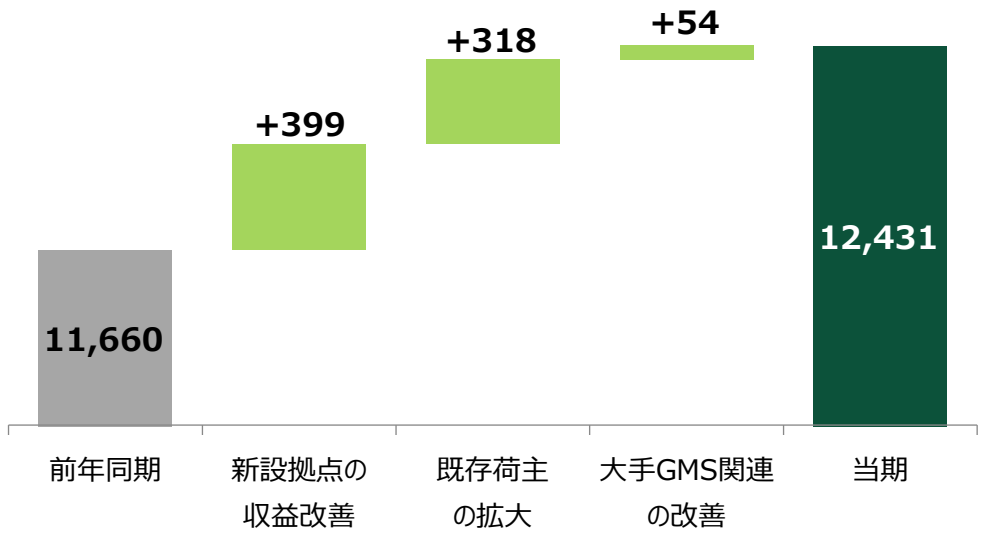
福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● **既存荷主の取扱拡大と前期開設センターの寄与により、売上高は前年同期比106.6%**

■ 売上高実績

（単位：百万円/%）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比	計画比
売上高 合計	**11,660**	**12,431**	**106.6**	**102.2**
加工作業料	6,472	6,785	104.8	103.3
貨物保管料	5,188	5,645	108.8	100.8

■ 売上高の増減要因（前年同期比 +770百万円）



加工作業料

100円ショップ関連、機械部品、高度医療機器メーカーなど主要荷主の取扱量増加により、前年同期比104.8%

貨物保管料

前期開設センターの安定稼働を中心に増収、空坪率も2.8ポイント改善し、前年同期比108.8%

ポイント

- 増収の9割超は既存荷主の拡大と新設拠点の寄与
  - ✓ 既存荷主は今期に限らず継続的に取扱いが伸長
- 前期に開設した拠点が立上げ期から安定稼働へ移行

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

流通加工事業（2）収益性

- **料金改定と業務の内製化で、コスト上昇下でも収益性を担保する取り組みを継続し、利益額は拡大**
- **社内経費配分の見直しにより、報告上の利益の増加幅は縮小**

適正料金改定の推進

最低賃金・物価上昇を受け、前回改定から1年超の荷主に料金改定を実施

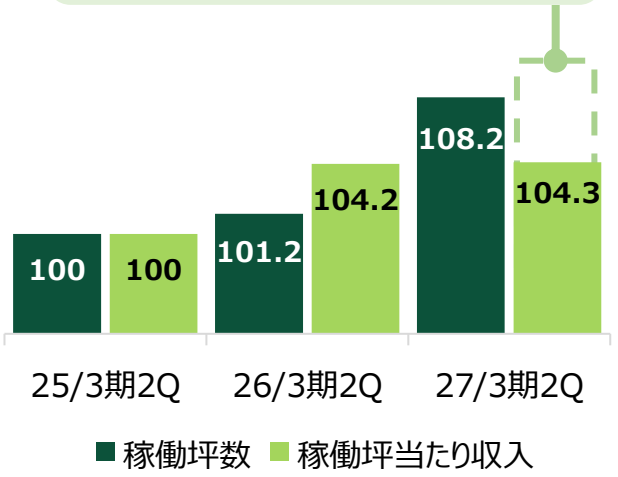
現時点
目標達成見込み
約88%

下期も改定の取り組みを継続し、
目標達成を目指す

生産性・稼働の改善

- 名古屋南・福岡流通センターで外部委託業務を内製化
- 稼働坪数は2期で+8.2%

チクブパッケージシステムの
業績を取り込んだ場合*1、
坪当り収入は向上する見込み



社内経費配分の見直し

事業実態を正しく示すため、本社費等の社内経費配分を見直し

減益影響：年間約△1.9億円

（百万円）	前年同期	当期
営業利益(報告値)	1,953	2,015
配分見直しの影響	–	65
影響除き営業利益	**1,953**	**2,080**
影響除き利益率(%)	16.7	16.7

※上記見直し分は運送事業からの振替のため、連結業績への影響は相殺

*1：チクブパッケージシステム社の当第2四半期の連結損益計算書への寄与はなく、第3四半期以降の取込を想定

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

流通加工事業（3）下期の主な取り組み

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

- **重点店所の改善と料金改定を継続し、既存事業の収益力を強化**
- **外部リソースの活用とチクブパッケージシステム社とのシナジーで、成長基盤を拡大**

既存事業の収益力強化

不採算店所の改善と料金改定で収益を底上げ

重点改善店所のマネジメント

- 不採算店所ゼロを目指して改善を継続
- 空き坪の多い拠点が重点的な対象

適正料金改定の推進

- 前回改定から1年超経過した荷主との協議を継続し、通期目標の達成を目指す

受託能力・付加価値の拡大

外部リソースとDXで受託能力と提案力を強化

外部倉庫の活用

- 自社センターの稼働率は95%超
- マルチテナント型倉庫の活用や同業他社との協業により受託能力を拡大

PAL社との協業で業績改善

- 物流DXパートナーとしてシステム・テクノロジーの導入、現場・業務への実装、データの生成・活用を行うことにより、業務の高度化による付加価値の向上、収益性の改善へと繋げる

チクブ社とのシナジー創出

各事業活動で協業（PMI）を推進

共同調達

- フォークリフト・養生資材等を当社調達に統合し、約2割のコスト削減

相互送客

- チクブ社の荷主に当社の特積・貸切・流通加工・国際の各サービスを共同提案

共同活用・共同営業

- チクブ社側で保管スペースが不足し、潜在受注量を取り切れていない
- 当社拠点の活用・新施設を共同検討し、共同営業で確実に刈り取り

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

国際事業（1）業績概要

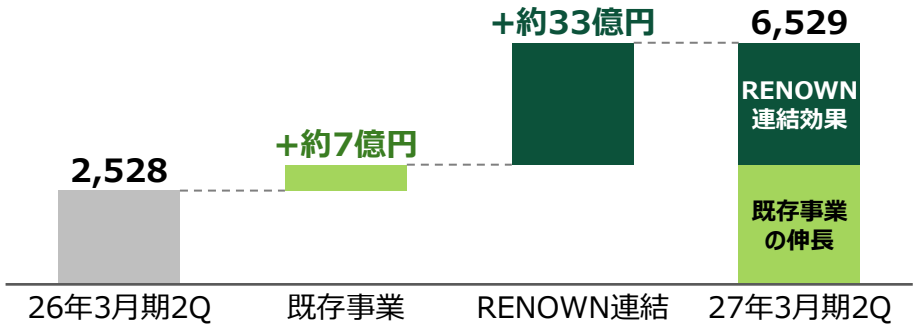
福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● **M&Aの寄与に加え、既存事業も物量増加・価格改定により大幅増収**

■ 売上高実績

（単位：百万円/%）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比	計画比
売上高 合計	**6,074**	**11,022**	181.4	115.0
国際運送業	1,593	**2,269**	142.5	112.5
国際利用運送業	2,528	**6,529**	258.2	118.3
通関業	1,690	**1,884**	111.5	106.2
その他	262	**338**	129.1	125.5

■ 国際利用運送業 売上高の増減要因（百万円）



※RENOWN社は前年下期から連結。下期は前年同期も連結済みのため、伸び率は上期と比較して平準化する見込み

国際運送業
プロジェクト貨物の獲得、運賃改定に加え、円安による換算増も寄与

国際利用運送業
RENOWN社の新規連結（約33億円）に加え、既存事業も物量増加により増収

通 関 業
料金改定と新規顧客獲得で、大口荷主の自社通関化を補い増収

■ 輸送コンテナ本数（第2四半期累計／TEU）



Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

国際事業（2）下期の主な取り組み

福山通運
FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● **国内事業部との連携、三国間案件の開拓で営業基盤を拡大、持続的な収益性の改善で業績向上を企図**

国内事業部との連携強化

国内と組み合わせた
総合物流の提案力を強化

事業部間連携の推進体制強化

- 各事業部と案件情報を共有し、連携を組織的な取り組みへ

トータル提案の推進

- 国際輸送と保管・流通加工を組み合わせた提案で大口案件の獲得を目指す
- 国際で運んだ貨物の流通加工への取り込みも拡大

グローバルセールスの拡大

日本・ASEAN発着に加え
三国間案件を開拓

三国間フォワーディング

- 中国・韓国・タイ・インドネシア発の第三国向けなど、日本を経由しない案件を獲得
- 海外法人・代理店と連携し、案件を開拓

プロジェクト貨物の獲得

- 国際運送業（クロスボーダートラック輸送）において、コンテナ以外の領域で収益源を拡大
- データセンター・工場向け変圧器など大型貨物の輸送案件を獲得

収益性の改善

コスト上昇を
機動的に価格へ反映

通関・ドレージ料金の改定

- 上期はコスト上昇に合わせた改定を実施
- 下期も改定を継続し、コスト上昇分を確保

機動的な運賃改定

- 原油価格・海上運賃の変動に応じて運賃を随時見直し、利益を確保
- ドレージの手配力を強みに、他社で対応が難しい案件を取り込み

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

2027年3月期　連結業績予想

（単位：百万円/%）	2026年 3月期実績	2027年 3月期予想	前年比
売上高	**318,582**	**340,700**	106.9
営業利益 （営業利益率）	**9,347** **(2.9)**	**14,800** **(4.3)**	158.3
経常利益 （経常利益率）	**11,475** **(3.6)**	**15,200** **(4.5)**	132.5
親会社株主に帰属する当期純利益	**13,696**	**17,700**	129.2

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

TGL山陰設立により過疎エリアでの物流持続性に貢献

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

- **ドライバー不足が深刻な地域で共同配送を実施し、リソースの有効活用や業務効率化を進め、ドライバーの生産性向上と地域物流の持続に貢献**

共同配送：一部エリアの配送業務委託

山陰福山通運 ⇔ 日ノ丸西濃運輸

出雲エリア →

← 大田・益田エリア



共同配送実施エリアにおいて、
いずれも集配件数及びドライバーの給与にも貢献
委託側においても、欠員対応にかかるコストを抑制

出雲エリア

- 集配件数： 112.6%
- 業績給の増加： 107.5%
  （一人当たり平均）

大田エリア

- 集配件数： 104.5%
- 業績給の増加： 107.1%
  （一人当たり平均）

益田エリア

- 集配件数： 117.3%
- 業績給の増加： 116.3%
  （一人当たり平均）

※担当エリアドライバー1人当たりデータより算出

両社合計の営業利益率 **3.1%改善**
（両社単純合算）

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

株主・投資家との対話（IR活動実績）

福山通運
FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

- **当社は中長期的な企業価値向上に向け、株主・投資家の皆様との対話を重視しており、今年度は以下の通りIR活動を実施**

■ IR面談の実施状況（2026年度上期）

対話実績： 計64件（国内外機関投資家様・アナリスト様 等）
主な面談形式： 個別面談

■ 主な対話テーマと当社の対応・見解（2026年度第2四半期）

1.運賃改定の進捗と今後の見通しについて
→ 7月以降の改定後運賃の適用拡大に伴い、単価の上昇傾向および来期以降も継続的な改定を実施する方針を説明

2.下期の業績見通しと通期予想据え置きの背景について
→ 第1四半期特需の一巡や荷動きの不透明感を考慮し、上期着地と下期動向を見極めるため、第1四半期決算時点では予想を据え置いた旨を説明

3.次期中期経営計画とROE向上に向けた取り組みについて
→来期公表予定の新中計に向け、本業の利益回復および自己資本コントロールの検討状況を説明

今後も対話を通じていただいたご意見を経営陣・取締役会へフィードバックし、企業価値向上に努めてまいります。

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

株主・投資家からの意見・要望の反映状況（1/2）

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● 適正運賃収受を主軸としながら、次期中計で協創・戦略的M&Aを段階的に推進する想定

項目	株主・投資家からの意見・要望	当社の取り組み
収益力・競争力	● 運賃改定と物量確保の両立、単価・物量・コストの改善を見える化して利益成長につなげてほしい	➢ 上期は物量制限をせず運び切り、第2四半期で1日あたり物量101.4%・単価102.7%（前年同期比）と両立 ➢ 下期以降は、既存5分類+新規2分類に基づく運賃改定を継続し、次期中計以降もコスト上昇を反映した適正運賃収受をサイクルとして推進 ➢ 今期第1四半期より開示については各要素の見える化を実施
	● 積載率の向上や空回送削減、共同輸送の効果と、全国ネットワークの競争優位性の提示	➢ 協力会社との連携や自社の輸送力確保に継続的に取り組み、上期の物量増の中でも積載効率に余力 ➢ 下期以降は、空車回送区間の他社協業で積載率の向上を想定
成長戦略・事業ポートフォリオ	● 貸切・流通加工・国際等の成長領域の拡大	➢ 上期は貸切108.6%・流通加工106.6%・国際181.4%（前年同期比）と伸長 ➢ 下期以降は、定期貸切の運賃改定継続、流通加工の不採算拠点改善、国際の総合物流パッケージ提案等で拡大を想定
	● 他社との共同輸送・アセット共同利用を含む協業方針と、展開可能性の提示	➢ 同業他社と幹線輸送を中継・ドッキングして輸送キャパシティを拡充し、重複地域では集配を分担して効率を向上 ➢ 実際に、セイノーHDとの共同配送、センコー社との共同輸送等を推進中
	● M&A・協業について、重点領域と利益成長へのつなげ方の明確化	➢ 現行中計でチクブパッケージシステムをグループ化し、国際ではM&Aが上期の増収に寄与 ➢ M&A専門部署・専任担当の配置を予定しており、各事業のミッシングピースを補完するM&Aを加速
事業基盤・人的資本	● ドライバー確保・処遇改善と、その原資を生み出す生産性向上策の提示	➢ 上期は賃上げにより輸送力を確保。物価・賃金上昇を反映した適正運賃収受を進め、運送事業の収益改善により処遇改善の原資を確保
	● 全国の拠点について、更新・統廃合・共同利用を含むネットワーク再編の考え方の提示	➢ 現行中計では保有不動産の売却でアセットライト化を推進 ➢ 次期中計でも不動産売却を視野に入れつつ、他社協業による集配分担で拠点稼働率を高め総資産回転率向上の戦略を提示予定

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

株主・投資家からの意見・要望の反映状況（2/2）

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● **次期中期経営計画の実現可能性と実行体制を高めることを想定。成長投資と還元の資本配分、資産効率、サステナビリティへの取組みを見直し、対話と開示の充実につなげることをお約束**

項目	株主・投資家からの意見・要望	当社の取り組み
中期経営計画	● ROE8%に向けた利益成長・資産効率・財務戦略による具体的な道筋の提示	➢ 現行中計では、主に政策保有株式や保有不動産の売却によってアセットライトを実施 ➢ 収益力向上については当初計画よりもやや遅れて、足元で成果が出てきている状況 ➢ 次期中計以降では収益力向上、アセットライト、株主還元等を組み合わせた計画として開示予定
	● 中期経営計画の目標と実績を検証し、実現可能性の高い計画と進捗の提示	➢ 次期中計については、社内の実行体制をしっかりと整備しつつ、達成のための仕組みを構築予定 ➢ 資本市場の皆様の納得感のある計画の運用方法も検討中
資本政策・資産効率	● 同業他社との比較も踏まえ、安定性・予見可能性のある株主還元方針の提示	➢ 現状、総還元性向50%を還元方針としているが、新中計策定にあたり再検討を実施中 ➢ 資本配分を見直すことで、成長投資を行いつつ、従業員、株主の皆様への還元を行っていく想定
	● 政策保有株式や低稼働資産の見直しを実施してほしい	➢ 現行中計においては400億円の縮減を目標に掲げ、現状313億円縮減し、残りは87億円の状況 ➢ 保有不動産の売却についても58億円実施。継続検討中
サステナビリティ	● 人的資本・安全・環境への取組みと事業の持続性、企業価値向上の連関性の提示	➢ 人事領域の課題にとどまらず、重要な経営課題であり、広義の労働環境充実に取組むことで競争力向上に寄与し企業価値向上にも資すると想定
資本市場との対話・開示充実	● 中計目標の進捗や取組みの成果を継続的に発信し、投資家との対話を経営改善につなげてほしい	➢ 開示内容や対話については改善に取り組んでおり、ポジティブな評価も一部から頂いている。ご意見、要望をいただければ真摯に向き合い検討する想定

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

Ⅰ 27年3月期第2四半期実績および27年3月期取り組み

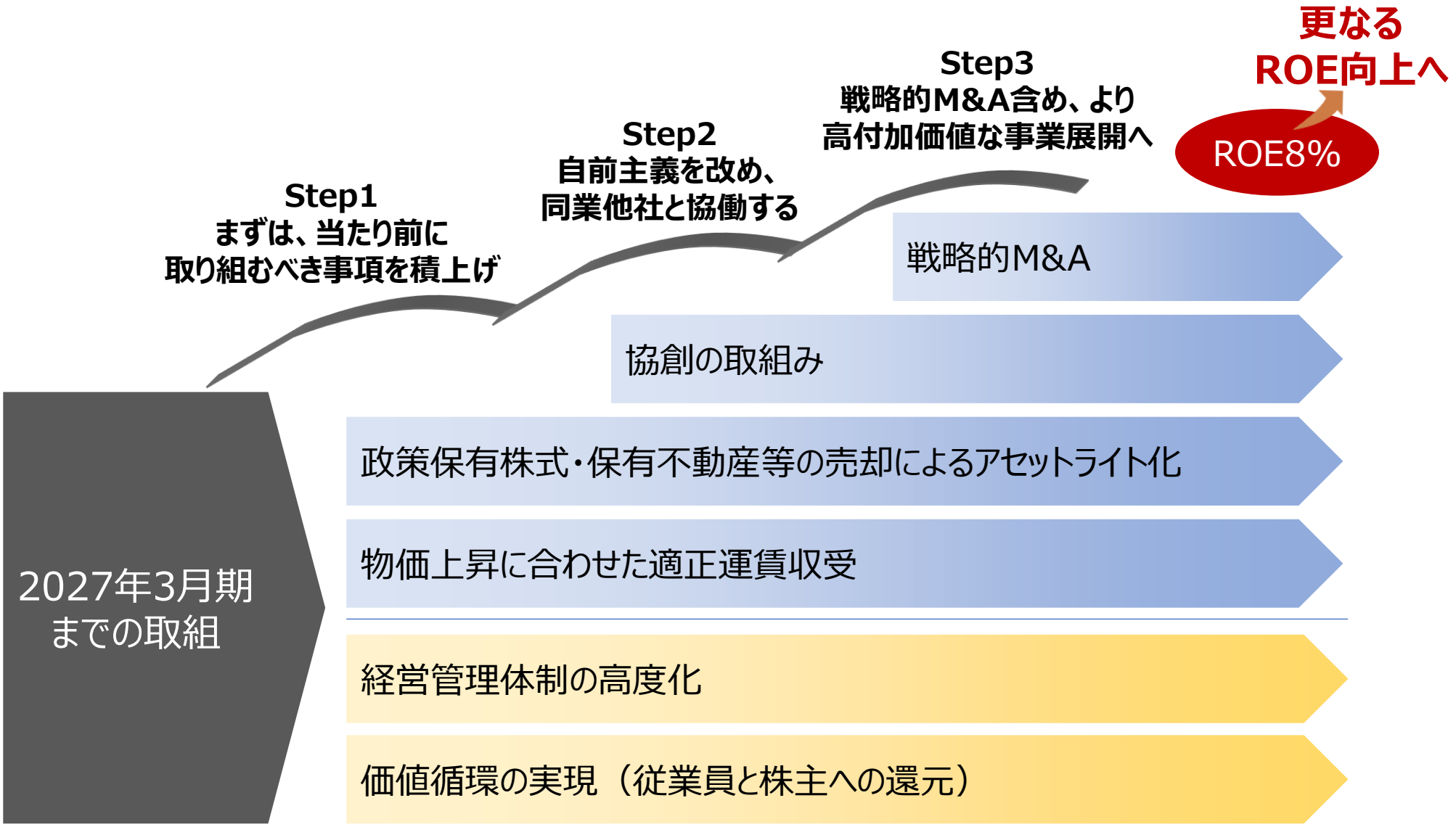
Ⅱ 企業価値向上に向けた取り組み

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

ROE向上への基本方針（サマリー　– 1/2）

福山通運
FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

- **物価上昇に合わせた適正運賃収受など着実な取り組みを積み上げつつ、まずは戦略的M&Aも含めROE8%を達成する**



Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

ROE向上への基本方針（サマリー　– 2/2）

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● **4つの重点施策と、それを支える経営基盤の強化でROE8%を達成**

ROE向上に直結する4つの重点施策

物価上昇に合わせた適正運賃収受	**賃金上昇を見据え、適正運賃を継続的に収受** • 現行中計：荷主の皆様のご理解を得て、物価上昇に伴うコスト増加分を運賃へ反映し、適正運賃の収受を推進 • 次期中計：最低賃金1,500円目標やドライバー賃金上昇等を見据え、コスト上昇分を運賃へ反映
政策保有株式・保有不動産等の売却によるアセットライト化	**資産売却を次期中計でも継続し、総資産を圧縮** • 現行中計：株式313億円・不動産58億円を売却済（今年度下期は、政策保有株式を87億円売却予定） • 次期中計：政策保有株式の売却を継続するとともに、保有不動産の売却・効率化を進め、総資産回転率を向上
協創の取組み	**同業他社との協創を加速し、輸送網を再構築** • 現行中計：セイノーHDとの共同配送、センコー社とのドッキング輸送等での共同輸送を実施 • 次期中計：協業先・エリアを拡大し、輸送キャパシティの拡充・最適化とアセット稼働率の向上を企図
戦略的M&A	**推進体制を整備し、M&Aで事業を高付加価値化** • 現行中計：経営企画部を立ち上げ推進体制を整備。チクブパッケージシステムのグループ化で流通加工機能を拡充 • 次期中計：M&A専門部署・担当を配置し、運送・貸切／流通加工／国際の各事業で補完的なM&Aを加速

× 重点施策を支える経営基盤

経営管理体制の高度化

コスト構造の可視化

- 集荷～配達の各工程で費用上昇の影響を可視化
- 適正な運賃水準を把握し、荷主の皆様へ提示

価値循環の実現（従業員と株主への還元）

従業員・株主へ還元

- 従業員：ベースアップ等で賃金水準を向上し、輸送力を確保
- 株主：利益成長に応じた安定的・継続的な還元

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

戦略的M&A

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● **各事業の高付加価値化に向けたミッシングピースを補完するM&Aについて、積極的に実施する**

現行中計の取組み		次期中計期間で想定するM&Aの取組み
• **経営企画部を立ち上げ**、M&A・アライアンスの推進体制を整備 • **チクブパッケージシステム**のグループ化で、流通加工機能を拡充 • **協創・アライアンス**の取組の進展	>	**運送・貸切事業** • 高単価貨物への転換には、荷主との関係構築、**高度な輸送品質を支える専門車両（エアサス車両等）、人材の確保が必要** • M&Aにより**顧客基盤・人材・車両を一体で獲得** **流通加工事業** • 高収益化には、検査・製造補助・輸出梱包等への展開が必要だが、**荷主開拓や専門人材・加工ノウハウの蓄積には時間が必要** • **M&Aでこれらを一体取得し、当社の特積路線と組み合わせる**ことで、中計期間内の事業転換を実現 **国際事業** • **限られた物量では海上運賃の調達競争力を高めにくく**、また輸出に向けて必要な機能（輸出梱包機能の獲得、等）にも時間が必要 • **一定の貨物量・荷主基盤を持つフォワーダー、専門人材・設備・ノウハウを持つ会社**を取り込み、日本発輸出・三国間輸送を拡大

M&A専門部署・専任担当を配置しM&Aにおける取組を加速

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

価値循環の実現（従業員と株主への還元）

福山通運 FUKUYAMA TRANSPORTING CO.,LTD.

● **稼いだ利益を従業員と株主へ還元し、持続的な企業価値向上につなげる好循環を実現する**

稼ぐ力の向上（還元原資の創出）

- 適正運賃収受による収益の確保
- 政策保有株式・保有不動産等の売却による資本効率の向上
- 協創・戦略的M&Aによる高付加価値化

輸送力の安定的な確保

賃上げ原資の確保

還元原資の確保

市場評価の向上

従業員への還元

- ベースアップ等による賃金水準の向上
- 値上げで得た原資を処遇改善に充当

株主への還元

- 利益成長に応じた安定的・継続的な株主還元
- 資本市場と継続的に積極的対話を行う想定

企業価値の持続的向上

還元により確保した持続的な経営基盤が、さらなる稼ぐ力の源泉となる好循環を実現

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.

ディスクレイマー（免責事項）



本資料は、当社グループの財務情報、経営指標等の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。
内容については、細心の注意を払っておりますが、妥当性、正確性、有用性について保証するものではありません。
将来の業績に関する内容が一部含まれておりますが、こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、様々な要因によって変動する可能性があることにご留意ください。
投資に関する最終決定は、ご自身の判断で行うようお願いいたします。当社としては一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

Copyright © 2026 Fukuyama Transporting Co., Ltd. All Rights Reserved.